

令和3年度第1回 鈴鹿亀山地区広域連合 介護保険運営委員会 議事概要

日 時 場 所	令和3年7月29日(木) 午後3時から午後5時15分まで 鈴鹿市役所 12階 1201会議室
出席委員	運営委員会委員 13名 菅原 秀次 委員, 藤田 浩弥 委員, 林 隆俊 委員, 中澤 直美 委員, 服部 典子 委員, 伊藤 健司 委員, 福田 智女 委員, 的場 つや子 委員, 小林 智子 委員, 森川 洋行 委員, 藤本 高尚 委員, 宮村 宏 委員, 村橋 正雄 委員
事務局	事務局 16名 鈴鹿亀山地区広域連合事務局長 佐藤, 介護保険課長 中条, 総務課長 宮村, 指導GL 岩田, 認定GL 中川, 給付GL 岡田, 管理GL 善福, 管理G 松井, 小林, 鈴鹿市長寿社会課長 谷本, 亀山市長寿健康課長 豊田, 鈴鹿中部地域包括支援センター長 長谷川, 鈴鹿西部地域包括支援センター長 玉井, 鈴鹿北部地域包括支援センター長 岡島, 鈴鹿南部地域包括支援センター長 青島, 亀山地域包括支援センター長 藤本
傍 聴	なし

1 委員会成立の確認, 会議の公開決定, 議事録作成の確認

2 運営委員会の会長及び副会長の選出

3 議事

(1) 地域包括支援センターの令和2年度決算・事業報告について

・事務局, 各地域包括支援センターから説明【資料1, 2】

(村橋委員)

受託金は, どこからの収入なのか。また, その他の収入とは何なのか。職員の給料と人数が合わないと思うがなぜか。

(事務局)

受託金は, 広域連合から委託料として包括へ払っている分である。その他については, 母体である法人からの繰入金であり, 受託金以外で行っているものである。職員の人件費については, 人数割りではなく, センター長は700万, 三職種については600万となっている。

(村橋委員)

受託金収入は, 広域連合との契約に基づく金額ということか。

(事務局)

そのとおり。

(宮村委員)

収支決算書の公用車の購入や包括によって負担金の有無があるのはなぜか。人件費が80～

90%を占めている状況で、給料の昇給など個々の件についてはどうなのか。

(南部包括)

人件費比率が非常に高い事業であり、事業費の捻出が難しい。車などを購入は委託されている法人から持ち出すというのが基本的な運営スタイルである。法人としては非常に苦しい中でやっているが、地域貢献、非常に大事な事業であると自覚をもって運営させていただいている。負担金については、包括在介協議会会費で任意のものであるため、加入していればここに計上されている。

委託料の中に人件費も含まれており、三職種の人数は高齢者人口比率によって決まる。委託されいるとはいえ法人であるため、職員に関しては、その法人職員であり、その法人で決められた号や級などで決まる。

(菅原会長)

法人によって、それぞれの経営のやり方によって違ってくる。

(藤田副会長)

地域包括支援センターは、独立性がないといけない。委託されていても委託先の法人の意向が入ってくるのは疑問で、繰入金に関しても疑問がある。平等であるべきで、繰入金があるところとないところで違ってくると、法人の意向で行動が変わるといふところがあると思う。独立性のある地域包括になれるといいと思う。

(宮村委員)

西部の報告書の無料定額宿泊施設がこの辺にもあるのか、基幹型とは何か、障害者等に住みやすいとなっているが（健常者と）一緒ではないか。

(菅原会長) 基幹型に関しては、各市に基幹型を置き機能強化という中でバックアップ体制をしっかりとしていくというイメージ。地域包括支援センターは、4から8へと細かい圏域にし、きめ細かく関わられるようにしていった。今は、8期に入っているが、今回はその前の段階の決算の説明である。

(西部包括)

無料定額宿泊施設は、塩浜にある。

今問題になっているのは、障がいを持った方の両親などが亡くなられて1人残されてしまうというようなケースが多くなってきている。昔なら当たり前前に施設にということが、当たり前前に幸せに地域で生活できる、これがノーマライゼーションだと思うので、そういったものを目指してセンター運営をしている。

議題について委員に承認を確認、委員承認。

## (2) 鈴鹿亀山地区広域連合第7期介護保険事業計画の進捗状況について

・事務局から説明【資料3, 3-1】

(中澤委員)

コロナによって、高齢者の方が外へ出て集まる機会がないと老人会の方々からも意見をいただいている。外へ出ないとどうしても孤立してしまう。

(事務局)

鈴鹿市としましては、フレイル予防としてCNSで5分程度の番組を2回流したり、Youtube

の方にのせてそれを利用してもらったり、今年度も介護予防としてやっていきたい。

(事務局)

亀山市では、サロン活動が活発で、100近いサロンがある。地域の中で小さい単位で少人数での活動が活発である。たくさんの方が集まることができない状況で、小回りの利くサロンがたくさんあることはいい事だと感じている。社会福祉協議会も一緒になって支援していただいている。まだ空白地域もあるので、サロンを後押ししていければと考えている。

議題について委員に承認を確認，委員承認。

(3) 居宅介護支援事業所及び地域密着型サービス事業所の指定更新等について

・事務局から説明【資料4】

(小林委員)

廃止事業の中で、人員不足や継続困難といった事業所がたくさんある。ニーズとしては増えているのに経営が成り立っていないという状況にあるということか。

(事務局)

コロナの影響もある。施設に行かせたくないという方もいらっしゃる。

(中澤委員)

どのくらいの割合で、コロナ延長認定者がいるのか。

(事務局)

施設入所者の方で440件、在宅で1,508件の方がコロナ延長になっている。

(中澤委員)

何%の割合か。

(事務局)

おおよそ1万件の中で、更新者は半分、その内の2千件だが、一人の方が何回も更新する場合があるので一概には言えない。

(小林委員)

コロナのせいもあり、介護認定が遅れていると聞いている。滞りなく進めていただくようお願いする。

(事務局)

真摯に受け止めさせていただき、今後も気を引き締めて邁進してまいります。

議題について委員に承認を確認，委員承認。

(4) 令和4年度指定予定地域密着型サービス事業者の募集について

・事務局から説明【資料5】

(中澤委員)

応募がない状況が続いているが、秘策はあるのか。

(事務局)

要因として、人材不足があげられる。特に看護師の確保が難しい。事務局としても検討して

いる。

(中澤委員)

必要だから整備を進めているという前提で動いていると思うが、どうしたら応募者が集まるか、いいことだということをPRしていけるか考えていただきたい。鈴鹿に看護学校があるので、看護師の確保をしてほしい。

(菅原会長)

機会があるごとに話はさせていただいている。まずは、医療系に進みたいと思っている方が多い事や、全国から来ているので、地元に戻る方もみえる。ただ、こういう話が出ているということは、伝えさせていただく。志のある学生がみえれば紹介もさせていただく。

議題について委員に承認を確認，委員承認。

(5) 介護予防支援業務の委託について（非公開）

予定していた事項の審議は終了。